Challenge Cooperation Communication
# C-pharmacy-3

## 医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院 薬剤部

# チーム医療、地域医療に貢献する臨床薬剤師の育成
## ～主体性と問題解決能力を育む人材育成プログラム～

薬剤部
部長
仲鉢 英夫（ちゅうばち ひでお） 先生

薬剤部
宮田 祐一（みやた ゆういち） 先生

薬剤師への社会的ニーズが高まる中で、臨床薬剤業務およびチーム医療の実践能力を備えた薬剤師の育成が課題となっている。湘南鎌倉総合病院（神奈川県鎌倉市・619床）薬剤部は、日常業務を通じた実践能力の強化とともに、法人グループ内の離島・へき地の病院薬剤師と共に学ぶWeb症例検討会をはじめとした人材育成プログラムの充実に力を入れている。ファーマシューティカルケア（患者のQOLを向上させる確実な結果を目的とした責任ある薬物治療の提供）の実践を目標に掲げ、主体的に行動する薬剤師の育成を目指す同院の取り組みを取材した。

### 自ら考え、主体的に行動する薬剤師の育成

湘南鎌倉総合病院は、高度急性期医療を担う地域の中核病院であり、全国に70病院を展開する徳洲会グループのリーディングホスピタルでもある。薬剤部は「患者第一」をモットーに、医薬品適正使用を責務としてチーム医療、地域医療への貢献を目指している。薬剤部長の仲鉢先生は、「薬剤師の病棟活動は20年以上前から開始しており、医師や他職種との協働によるチーム医療が根付いています。2014年の院外処方への切り替えにより、病棟業務への比重はさらに高まり、現在は救急・ICUを含む全15病棟に薬剤師を配置し、回診やカンファレンスに参加するなど活躍の場を広げています」と説明する。

人材育成における基本方針は、「目の前の患者に最善の薬物療法を提供するために、自ら考え、主体的に行動する薬剤師」であり、それを体現しているのが、7年目の薬剤師で、救急・ICUおよび循環器病棟を担当する宮田先生だ。2015年には周術期患者を対象とした薬剤師の術前外来を提案し、実現させた。「術前の薬の管理が不十分で手術が延期になる可能性もゼロとは言えません。ジェネリック医薬品が増加する中で、薬剤の知識を持つ薬剤師が休止薬のチェックや患者への説明を行うべきだと考えました」

こうした意欲的な先輩の姿勢に若手も触発され、自分にもできることはないかと考え、提案する。それが患者にとって必要なことであれば、仲鉢先生は、若手、ベテランを問わず受け入れ、実現を後押しする。「主体的な行動の中から責任感や使命感が育ち、モチベーションが高まります。それが薬剤部全体の活性化につながると考えています」

### 臨床スキルを育む環境と人材育成プログラム

新人薬剤師教育においては、体系的な教育プログラムに沿って、病棟業務の基本的知識までを含め1年間で薬剤部内の全業務を一通り経験する。先述の術前外来は、1年目の薬剤師が患者とのコミュニケーションや薬剤情報収集のスキルを習得する場でもある。また、2年目と3年目の薬剤師が指導するチューター制を導入し、相互のスキルアップに成果を上げている。

入職10ヵ月目から開始する病棟業務では、本人の希望や適性に応じて担当病棟が決められるが、まずはジェネラリストとしての基盤を固めることに力点を置く。「例えば、循環器病棟では多くの患者は循環器疾患以外の薬も服用しており、医師からは専門外の疾患や感染症、合併症の薬剤の知識が求められます。日々、患者と向き合い、医師や他職種からのニーズに応えようとすれば、幅広い薬物療法の知識を持つことの重要性に気づかざるを得ません。その上に専門性を積み上げていくことで、臨床薬

**資料1 湘南鎌倉総合病院の主な人材育成プログラム**

| | |
|---|---|
| 新人教育 | ●チューター制度<br>主に2年目のスタッフをチューターとして選出し、交換ノートの添削や理解度の確認を行う。 |
| 継続教育 | ●水曜勉強会（個人毎の持ち回り制）<br>15分間で疾病、薬物療法についてまとめる<br>●プレアボイド報告会（月1回）<br>病棟単位で発表し、日本病院薬剤師会へ報告<br>●メーカー勉強会（月1～2回）<br>話題の薬物療法など<br>●症例検討会（月1回）<br>Web会議システムを活用し、離島・へき地の薬剤師も参加<br>●POS勉強会（奇数月）<br>薬物治療における問題を解決するための介入方法を討議 |
| 離島・へき地研修 | 薬剤師3～4名が2～3ヵ月のローテーションでグループ病院に赴き、学んだことを支援先で実践 |

剤師としての対応力が広がると考えています」と宮田先生は話す。

臨床現場での実践能力の養成とともに、勉強会や研修会など学びを深める機会も多い（資料1）。週1回、水曜日の朝に全薬剤師が持ち回りで担当する15分間のミニ勉強会のほか、症例検討会、プレアボイド報告会を毎月開催する。2016年からは宮田先生の発案で問題指向型検討会を開始。隔月で薬物治療における問題を解決するための介入方法を話し合う（資料2）。また、学術活動では年間15演題以上の学会発表を薬剤部の目標とし、取り組みの成果を発信すること、全国の薬剤師の活躍に触れて刺激を受けることも教育の一環と位置付けている。

注目されるのは、グループ内の離島・へき地の病院での業務支援を兼ねた研修だ。全52名の薬剤師のうち2年目以降の薬剤師3～4名が2～3ヵ月のローテーションでグループ病院での業務にあたる。仲鉢先生は「薬剤師不足の病院への応援という側面もありますが、当院のノウハウやスキルを還元することで、グループ全体の業務レベルの均てん化を図り、離島であっても住民が質の高い医療を受けられるようにすることが目的です。一方で、応援に行く薬剤師も、少人数であらゆる業務をこなすという得難い経験をすることで、3ヵ月後には逞しくなって戻ってきますね」と話す。

同院の人材育成プログラムは、薬剤師としてのレベルアップだけではなく、その職能を患者や地域社会にどのように還元していくべきかを考えさせるものといえる。

## 離島・へき地の薬剤師と共に学ぶWeb症例検討会

症例検討会は、Web会議システムを介して離島・へき地のグループ病院の薬剤師も参加する。症例検討のテーマは、循環器疾患や腎疾患、がんなどの基本的疾患を柱に、ポリファーマシーや臨床推論などその年の注目テーマを組み込む。発表者は2～3年目の薬剤師の中から手上げ方式で決まり、先輩薬剤師とペアを組んで会当日まで準備を重ねる。

症例検討会の模様を一部紹介しよう。会の開始は午後7時。同院の薬剤師約20名のほか近隣薬局からも数名、また、Webを介して札幌、湘南厚木、出雲、長崎北、瀬戸内、宮古島の各グループ病院の薬剤師が参加した。この日のテーマは脳卒中。急性期後の2症例について3年目の薬剤師が、脳梗塞再発防止の重要性や薬剤選択について臨床試験データ、診療ガイドラインを交えて考察を進める。途中、「長崎北の先生、脳梗塞の二次予防を考慮した抗血栓薬の選択をどう考えますか」と、サテライト会場の薬剤師にも質問を投げかけ、双方向でのやりとりが展開される。離島の薬剤師からは、薬剤選択における薬剤コストの考慮についての質問があり、退院支援の体制などの現状と課題を共有した。

Webを活用した症例検討会は、学ぶ機会や症例の少ない地域で働く薬剤師のスキルアップ支援に有用であり、仲鉢先生はグループ内だけでなく、地域へと広げていくことも視野に入れている。

## 薬剤師による地域医療への貢献

今後、地域包括ケアシステムの中で薬剤師が役割を果たすためには、地域の保険薬局との連携強化が不可欠だ。2015年より院外処方箋への臨床検査値の表示を開始しているが、患者の病状や処方意図、入院中の経過など、薬物療法を継続するために必要な患者情報の共有はこれからの課題である。薬剤部では『鎌倉薬薬連携を考える会』を発足し、地域の中でスムーズに情報を引き継ぐための基礎づくりに着手。他の病院にも声をかけ、地域の薬剤師同士、顔の見える関係作りから始めている。次のステップとして、情報共有ツールを作成し、鎌倉市の取り組みを全国のモデルとしたいと宮田先生は意欲を示す。「薬剤師の活躍の場が大きく広がる中で、常に開拓者として新たな取り組みにチャレンジしていきたいと思います」

一方、仲鉢先生は、薬剤師自身が医療における存在意義を認識しきれていないと指摘したうえで、「医療の担い手として、なくてはならない存在であるという自信と誇りを持って行動すること、また、それを裏付ける根拠として薬剤師業務のアウトカムを出すことで、患者や他職種、そして地域社会から信頼される薬剤師集団を目指します」と締めくくった。

**資料2 症例検討会、POS勉強会のテーマ**

症例検討会のテーマ（2017～2018年）

| 月 | 内容 |
|---|---|
| 10月 | 感染 |
| 11月 | 糖尿病・内分泌 |
| 1月 | 栄養（or/and褥瘡） |
| 2月 | 輸液体液管理・代謝 |
| 3月 | 腎臓・電解質 |
| 4月 | 循環器（虚血・心不全・不整脈） |

テーマ毎に、プレゼンター・担当チューター・確認者を決め、症例検討会までに準備。

POS勉強会のテーマ（2016年12月開始）

| 月 | 内容 |
|---|---|
| 12月 | Pharmaceutical Care |
| 1月 | POS（問題点抽出） |
| 2月 | 敗血症、AKI |
| 3月 | 抗菌薬のEBM |
| 5月 | 処方解析（処方内容から情報収集） |
| 7月 | バンコマイシンについて考える |
| 9月 | 周術期管理 |

症例検討会風景